

「隠岐の石州瓦」大賞

ジオパーク 研究論文 地域資源の活用提案

魅力再発見につながる優れた論文に贈る「隠岐世界ジオパークに関する研究大賞」の最終審査が20日、島根県隠岐の島町港町の県隠岐支庁であった。グランプリとなる隠岐世界ジオパーク大賞には浜田市野原町、浜田高校教諭、阿部志朗さん(49)の論文「隠岐の瓦屋根景観について」が決まった。



町民らを前に論文の内容を説明する大賞受賞者の阿部志朗さん—島根県隠岐の島町港町、県隠岐支庁

容を発表した。

阿部さんは、隠岐地方にある石州瓦を研究した。北前船などで持ち込まれた瓦が島内で広く流通し、景観の一部として溶け込んでいることなどを説明。活用策として「古い石州瓦を探すワークショップを開催してみては」と提案した。

同じく最終選考に残った香川県三豊市の香川大学院准教授、高木知巳さん(51)の「ジオパークの投資対効果」、松江市西持田町の無職、木幡育夫さん(65)の「隠岐世界ジオパークの観光振興に関する考察」には準グランプリの隠岐世界ジオパーク賞が贈られた。隠岐世界ジオパーク推進協議会では2015年度も論文を募集する。

阿部志朗教諭の論文20は「隠岐の瓦屋根景観について」でインターネット検索できます。

まとめ

- 赤や黒の石州瓦は、隠岐の景観を特徴づけている。
- 赤褐色の石州瓦(石州赤瓦)は、鎌倉や徳富に強く、江戸時代後半から日本海沿岸地域に広く流通した。
- 隠岐の地質・土壌は瓦生産に不向きであり、鎌倉や徳富に強い石州赤瓦が江戸末期頃から移入した。
- 徳富と同じ、明治・大正～戦前の石州瓦は、佐渡島や新潟・富山などにも分布している。
- 隠岐島内では、石州瓦が各町村から内陸にかけて古い順に広がっている。
- 地域や学校で、「瓦の文様(マーク)探し」のようなワークショップをしましょう!

研究大賞は、隠岐郡4町村などでつくる隠岐世界ジオパーク推進協議会(会長・松田和久隠岐の島町長)が初めて企画。県内外から論文計4点が寄せられた。この日は2月の1次審査を通過した3点の筆者が関係者や住民ら約30人を前に内